



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川 清志
 題字 島崎 洋路

『ロング&ワインディングロード完成』
 通年コース第十三・十四回開催報告 林道設計・枝打ち

ピートルズの「ザ・ロング&ワインディングロード」はあなたの心の扉に向かう道ですが、林道は里と山とをつなぐ道です。少し前までは、植えた木を手入れするため山に入る「杣道(そまみち)」が奥山まではいっていました。お爺さんならずとも、山に柴刈りに行って焚き



法面には丸太を敷いて土留めにする

物を調達し、時期にはキノコや山菜を採り、そして時にはウサギなどを捕まえて貴重な蛋白源としていました。いわゆる「うさぎ追いし、あの山」ですね。
 山に通う人も少なくなり、植えた木の手入れもままならなくなると、道もだんだんと消えていってしまいます。そして



てます。ます人、の心は、山から、離れて、しまい、山林の

荒廃はどんどん進むという悪循環に陥ってしまいます。「現状を打破せよ!!」というほど大げさではないのですが、2006年を最後に途絶えていた、森林塾の林道設計演習が6年ぶりに復活したので。
 折りしも戦後からこつこつ植えたスギやヒノキ、カラマツが順次収穫の時を迎え、それに伴い、間伐の補助金が材を搬出しないと交付されないようになりました。政府としては、森林・林業再生プランで現在20%そこそこの日本の木材自給率を、2020年までに50%に引き上げよう、という風呂敷を広げた以上、間伐に搬出は必須でしょう。そのための高密度の



いい加減に切り盛りをする

路網整備は欠かせません。大きな規模で木材を搬出することが、しばらくの間途絶えていた事もあり、日本の山林は林道の密度が高くありません。2007年の比較で、ドイツがヘクタール当たり46m、オーストラリアは同45m、アメリカは同23mですが、日本は13m足らずとなっています。急峻な山林が多いというハンデはありますが、少なくとも倍は欲しいところです。さて、測量と設計が終わった一日目の午後、路線を歩道として開設するための土木工事の開始です。休憩も取らずに2時間弱、トンガや掛け矢を振り、12%勾配の歩道約100mを完成させました。歴史ほど立派な口

不通箇所が開通間近
 時間弱、トンガや掛け矢を振り、12%勾配の歩道約100mを完成させました。歴史ほど立派な口



とぐるの先に蛇口(へびくち)をつくる

ロング&ワインディングロードの完成に皆さん大満足でした。
 二日目は保科先生に枝打ちの指南を受けたあと、戸台のカラマツ林見学です。30度近い急傾斜ですが、保科先生の通勤路、歩道がくまなく入っており、その恩恵に浴しながらの見学でした。

カラマツ林の保育の過程で、枝を樹高の半分以上残しておくことは、かなり難しく、そのためには適期の間伐を繰り返す必要があります、それを見事に続けている山林でした。今後、どの時点でのように収穫するか、それは息子さん、お孫さんの世代の宿題として残されました。

通年コース第13・14回
 10月19・20日(金・土)
 林道設計・枝打ち・見学

一日目

小屋で林道設計説明の後、やぶ払いと枝葉片付けの終わった現場でコンパス測量。

二日目

伊那市長谷の「気の里ヘルセンター」の木に集合。「中央構造線公園」(長谷には

方位角、高低角のほか、ポールを使って横断も測る。傾斜が結構急で、レベルをとるのにやや手間取った。
 昼食休憩時に「林業家 保科孫恵さんの育林記」のDVDを見た後、現場に戻り歩道開設作業に入る。40度近い傾斜のところもあり、法面に丸太の土留めも所々敷設。
 2時間弱で立派な歩道完成。九十九折の何ヶ所かには階段も付いた。痛い腰を伸ばし、さすって小屋に戻り、ぶりに繩にする麻繩の端末加工、アイ・スプライス(へびくち作り)。これができたら手木を通してぶり繩の完成、さつそく木登り練習をする。どの猿も木から落ちずにハード・デイが終わる。



日本有数のカラマツ人工林



保科先生がヒノキ林に溶け込んだ



季節外れのセミの群れ

変わったものが多い(横に車を置いて、軽トラに鈴生りになって(ここは東南アジアの山奥か?)19年前に、KOA森林塾第1回植林の保科ヒノキ林へ。枝打ちの指南を受ける。

川島、松岡、早川
次回以降の予定
集中コース秋の部
10月26(金)~28日(日)
森林調査、施業方針作り、チエーンソーによる間伐、集材と一連の流れを勉強して

の功績など見ながらお弁当。午後は三峰川支流の小黒川脇にある保科先生のカラマツ展示林を見学。知る人ぞ知るカラマツ林です。参加者/飯塚さん、和泉さん、板山さん、大澤さん、金子さん、小林さん、佐々木さん、高橋さん、藤田さん、湯澤さん、熊木さん、水野さん、講師・スタッフノ保科先生

「長野県茅野市玉川字原山11400番地824 美濃戸高原別荘地穴山地区」これが私の現住所です。この住所から想像できる通り、

リレー通信
美濃戸高原への移住を目指して
藤田 和司

第十五・十六回
11月30日12月1日(金・土)
炭焼き・キノコの菌打ち・間伐の復習
簡易炭焼き窯で通年、専門で倒したスギを炭に。合間を縫ってキノコの菌打ちを行います。点火後は火を眺めながら忘年会の予定。一人一芸お願いね。差し入れも大歓迎。翌日炭出し後は、間伐の復習です。
専門コース第三回開催
12月13(木)~15日(土)
寒い最中の山仕事は本来のもの。

みます。そして、最後はチエーンソーの手入れ、目立てまで、結構盛りだくさんの三日間です。
赤岳、横岳、硫黄岳、北岳、八ヶ岳と縦走したので、その



“田舎”というより大変な“山の中”に今年の4月から住み始めています。この場所は、八ヶ岳の主峰、赤岳の登山口のある美濃戸口というところにあり、標高1550M、冬の気温は氷点下15度くらいまで下がります。東京の友人にこの住所を知らせると、まず住所に“字”がついていることに一様に驚かれ、そして“お前もとうとう世捨て人の生活を始めたか”と同情されるありさまです。そこで、友人に説明することも兼ねて、美濃戸高原に住み始めることになった経緯を紹介させていただきます。

その後、結婚し2人の子供を授かったのですが、子供を育てる環境として自然に触れさせることは必須と考え、大蔵省である家内を説得し、小さなログハウスを建てることにしました。その場所として選ばれたのが、八ヶ岳のふもとで阿弥陀岳のよく見える美濃戸高原でした。大人5人が雑魚寝できる程度のほんとうに小さなログハウスでしたが、まだ幼稚園に通っていた子供たちにとっては豪邸であり、秘密基地のような存在だったと思いま

す。子供たちが小学生のころの週末はほとんど美濃戸で過ごし、自然を十分体験させてやることができました。おかげで頭のできはイマイチですが、素直な良い子に成長してくれたと自負しています。子供たちが、ログハウスの周りの街灯など全くない本当の暗闇で泣き出したことや、天の川を曇り空と間違えたことなど、今でも時々懐かしく思い出します。



そして、昨年は所属していたアメリカの会社を買収され、早期退職を余儀なくされました。買収先に残る道もあつたのですが、会社に居座ることが若手のポジションを奪うことになるのではと感じ、それならば、業界から離れて一年でも早く新しいことにチャレンジしたほうがよいと考え、34年間勤めた製薬業界から離れることに



しました。加えて、幸いなことに子供2人の就職が決まり今年4月から家を離れることになりました。そこで、

これらを機に、思い切って東京の生活からも離れ、田舎に住んでみようということになりました。そこで選ばれたのが美濃戸高原でした。これが、美濃戸高原に住むに至る経緯です。

今年2月にはログハウス近くの近くに夫婦で生活できる家を建て、女房1人、いぬ2匹、猫1匹とともに4月に引っ越してまいりました。何とか生活できる住居の準備は着々と進み、初めての越冬のための薪ストーブの新も3か月かけて準備しました。さてこれから何をしたいところかと考え始めているところです。

私が、今後のことを考えるにあたり、念頭に置いていることが2つあります。

一つは、私の大学の恩師で山登りの素晴らしさを教えてくれた方が、いつも言われていたことです。それは、「自分の一生のうち、30歳までは自分のために、50歳までは家族のために、そして50歳を過ぎたら社会に貢献することを考えてがんばりなさい」というようなことでした。もちろん、人により対象年齢の変動はあるものの、自分が60歳近くなるとやはり考えさせられる言葉です。

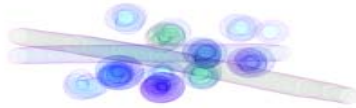
もう一つは、海外での体験です。

私は海外の製薬会社に勤めていた関係で、海外赴任・出張等で20か国近い国を見て歩くことができ、各国の文化、食べ物等を楽しむという役得にありつくことができました。その時、どの国に行っても感じたこと、それは日本のように森と水に恵まれている国はどこにもなかったということです。アメリカのアリゾナ州で生まれた育った同僚が、木の生えた山を日本に来るまで見たことがなかったことを知り大変驚いたのを覚えています。また、海外では、飲料水は必ずペットボトルの水を飲んでおり、日本のように、井戸水を飲むような国はほとんどありませんでした。こつしてみると、日本は資

源に恵まれていないとよくいわれていますが、森と水という素晴らしい資源があることをしっかりと認識しなければならぬと思います。

今後、何をやるのかと考える際、上述した、社会貢献、森と水の保存ということをキーワードにして考えていきたいと思えます。そして、森林塾での体験が間違いなくその一助になると確信しております。

リレー通信



私はなぜ、こんな私になったのか 西野 自由理

「は一体なにを目指してるん？」と、最近よく聞かれます。そんなとき、わたしは「ファンキーなバーちゃんを、目指してるんよ」と答えています。

生業は助産師である私が、この夏から秋にかけてKOA森林塾で森のことをすこし学び、その後くり罌の狩猟免許を取ったときも、やはり、周りからこのような質問

を多く受けたものです。そう、言葉が足りませんでしたが、「ファンキーでたくましく生活力のあるバーちゃんを目指している」のでした。

昔から、なぜか「いつか日本はボンッと弾ける時がある」と思っていました。それがなで弾けるの分からない状態になるのか分からない。弾けたらどんな状態になるのか分からない。中学生的なところから世界情勢に興味があり、高校生の時はチエルノブイリに行ったことも影響してか、なににしる、このベネリベンリ社会には限界があると、小さなころから思っていました。

で、その時が来たとき、「私は生き残りたい」と、常々強く思っていました。「でも」と、西野少女は思いました。「でも、私は身一つで野に放り出されたとき、ウサギも取れないし、魚も釣れない、森で生きていく知恵がない」と気付いたのです。その思いをようやく、言語化して人に話せたのは24歳の時、苦小牧から仙台行のフェリーの中でした。



見えなくて、お酒ばかり呑み、焦ってばかりいたように思うのです。しかし、そのフェリーの女子用雑魚寝部屋で、初めて出会ったYさんと、深酒をしながら、語り合ったとき、Yさんは山へ山菜を採りに行き、頂上でその山菜を煮炊きしたり、ハーブを育てたりと日々の生活を語ってくれました。そう、その時、私は「私は生活をしていない。生きていく知恵がない」というように、気が付きました。

「生きていく知恵を身につけたい」と具体的に強く思うようになったのです。そう意識し始めると、出会う人、出会う人が、自給自足的に自分達の暮らしを作り上げている人たちが、やはり、自分の生きていく方向性はこれでいいんだと確信するようになっていきました。

と、強く思っていました。そして、田んぼも畑も、きそいで、実家の山にも近く、大好き

な北海道にも近く、弟も住んでいる長野に住むことにしました。1 年間はエンドレスな夏休み期間にしようと思っていたので、その間は歩いて北海道を旅したり、前々から会いに行く約束をしていた友達をめぐる全国旅をしたり、ギニアのジエンベマスターの家にダンスや太鼓をしつつ3カ月住んだりして、糸の絡まりをほどこしていったのです。

そして、旅から帰ってきて現在住んでいる家に住むようになりまし。

ここは、天竜川の支流の支流の川沿いにある家で、大家さんの爺ちゃんが山から出ている湧水を引いている古い家でした。薪で炊炊き、ドラム缶風呂に入り、洗濯機、冷蔵庫のない生活しています。ギニアで暮らしていたときと何ら変わりのない生活をしています。

それが、この春から、急に猪、鹿が、うちの畑やニワトリの餌を荒らしにくるようになり、イノシカばかり敵視して憎らしく思っていたのですが、でもあの人たちにもあの人たちの事情があり(人が山に入らず駆除数も少ないためイノシカ人口はうちの地区は本場に多い。だから彼らの1頭当たりの食料も少なくなる)、春窮のこの時期、手入れされていない森に

食料もなく、里に下りてござるを得ないんだな、と思うと、もっとあの人たちの住む場所を知りたいと思うようになりまし。それで、森林塾に応募し、森のことを知るきっかけを貰ったのです。(薪を切る程度ですがチェーンソー使ってます！森を見ても森林密度のこと考えるようになりまし！森に入るのがもっと楽しくなりまし！)それでも、やはりイノシカ達に少しは退いてもらうためにも、あとはお肉を頂くためにも狩猟免許を取ったりもしたのです。

今まで、旅ばかりしてきた風の人生でした。だから一所にとどまり、根を下ろす土の生き方にあこがれるのです。自分の住んでいる場所と向き合いながら、生活を見つめていると、イノシカやニワトリ、森やミミズと向き合うようになり、気付けば徐々に地に根をはり、きちんと生活を(あまりお酒に吞まれず)生きていくことが少しはできるようになってきたのかなと思ひます。これからの時代は、半農半Xではなく、半山(半森)半Xだっ、と思ひまし。

ているから、わたしはわたしで、こんな感じで笑って楽しく、今を生きるといいうわけです。

森林塾ありがとうっ！



No.8 「林木(立木)の評価」

a. 市場価値逆算法 評価対象林木を伐採、搬出して市場で販売したいいわゆる市場価格から、伐採搬出に要する見積費用と伐採搬出事業の見込利益を控除した残額をもつて、その林木の立木価格とする方法で、上式によって算定される。林木を伐採することを前提としていることから、伐採法とも言われ、一般に多用されている。

b. 林木費用法 (Hkm) 林木の育成に費やした経費の後価合計(元利合計)をもつて林木の評価額とする。ただし育成の過程で収益が得られた場合には、収益の後価合計を差し引く。評価の過程で利子計算が伴うので余り長期間の評価にはなじまず、育成初期の幼齢林の評価に適用される。林木費用法式(Hkm)は下式による。ただしC1、C2、...Cmは植栽年、2年目、...m年目の経費で、造林費、地代、管理費の合計額とする

c. 林木期望値法(Hem) 現在から主伐期までの間の主伐及び間伐収入の前価合計からその間に必要となる経費の前価合計を差し引いた評価額である。費用法と同様な理由で、主伐期までの期間が長い幼・中齢林での評価にはなじまず、実用性より経営方針の比較検討などに役立つ。理論的な林木期望値法は下式による。

$$X = A - (B + R)$$

ただし X : 立木価格 A : 丸太の市場価格 B : 伐出費 R : 伐出利益

$$Hkm = C_1 \cdot 1.0 P^m + C_2 \cdot 1.0 P^{m-1} + \dots + C_m \cdot 1.0 P$$

$$Hem = \frac{Au + Dn \cdot 1.0 P^{u-n} - (B + V)(1.0 P^{u-m} - 1)}{1.0 P^{u-m}}$$

d. グラゼール法 幼齢林については費用法が、伐期に近い壮齢林には期望値法が、伐期以降の林分には伐採価(市場価値逆算法)が適用されるが、幼齢林から壮齢林までの中間年齢の林木評価は、費用法と期望値法とにも適さないことが多い。グラゼール氏は、期望値法と費用法との考え方を組み合わせる上段の左式を提案し、中間年齢の実用的な評価法として多用されている。費用法式や期望値法式のように計算式に林業利率(p)が関係しない点が評価されている。

$$Hm = (Au - C_{10}) \left(\frac{m-10}{u-10} \right)^2 + C_{10}$$

用価法、期望値法ともにも適さないことが多い。グラゼール氏は、期望値法と費用法との考え方を組み合わせる上段の左式を提案し、中間年齢の実用的な評価法として多用されている。費用法式や期望値法式のように計算式に林業利率(p)が関係しない点が評価されている。

島崎 洋路

おわりに

11月10日(土)KOAパイパークで感謝祭が開催されます。地域の皆様はじめ日ごろお世話になっていらっしゃる方に感謝の気持ちを込めた催しです。11時~14時。新そばはじめ飲食サービス、子供木工教室ほかメニューいろいろ。御用とお急ぎで無い方は顔をお出しく下さい。詳しくはKOAホームページにて。

秋も深まり、今年度の森林塾も第三コーナーを回つていよいよホームストレッチに突入です。

投稿大歓迎。ご意見ご質問は早川・松岡(事務局)までお知らせください。

TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail:



mi-matsuoka@koanet.co.jp ki-hayakawa@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062(開催日) URL http://www.koanet.co.jp